

力の壓制が必要になつて来る。それでは自治の社會ではない。機械的な組織はすべて吾々は排斥する。共產社會のもとでは、社會の目的のもとに個人の自由が壓迫される場合が多くなつたり、創意が無視されたり、冒險的な活氣がなくなつて一般的な沈滞を來したりしないとも限りふいことを慮れる。集産主義は、資本家から解放されたにしても、民衆は國家の名のもとに同じく賃銀奴隷にされて了ふことである。生産手段を全く社會化しなくてはならないと云ふことはふいと思ふ。ただ一般公衆の安寧に直接關係するやうな事業、たとへば鐵道、水道、瓦斯、電車、郵便等の如き、其外大規模の組織を要すべき工業、たとへば鑛山、電氣事業等は、公有公營にされ、その統制の方面は、直接其處に働く人々に依つてなされるといふギルド社會主義の主張に基いてなされるべきであらう。其他の小工業制をとり得るものは、一つの工場ならばそれを單位にして其處に働く人々に依つて共同的に所有されそして勿論共同の統制のもとにおかれるやうになり、全然資本家の専横に任せておいてはならないのである。農業に於ては自分の耕すだけの土地は所有されても差支なく、又共同の耕作の組織や、自發的に結合した小規模の共産村落のもとに地主を無くして了ふ事である。たゞ森林や牧場などは、一般的に共有される様になることが必要である。兎に角、統制の全くなくなつた自治の社會が吾々の目指すところである。

.....(五) 五項.....(六) 五項一行三三三.....(七) 五項七項地.....